

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学

社会学部

2027

Faculty of

Sociology



More Ways More Possibilities

社会を広く見つめ、 新たな可能性を見出す

私たちの社会は、ますます複雑で多様になっています。

既存の枠にとらわれず、自ら課題に気づき、思考を深め、

より良い未来をともに創る人間を育成する。

それが、龍谷大学社会学部の教育のあり方です。

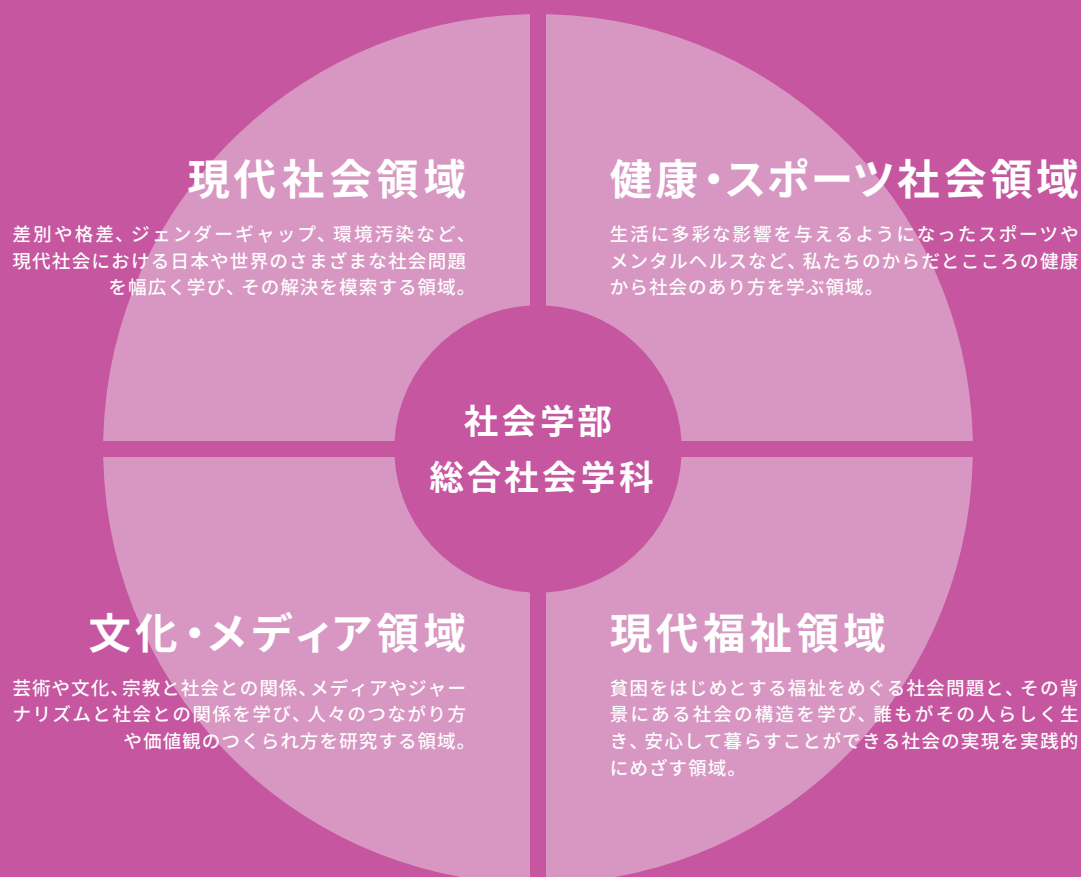
リアルな現場で考え、地域や世界の課題と向き合う。

さまざまな事象を学び、理論と実践を往復しながら、自身の視野や関心を広げる。

多様な価値観に触れ、自らを省み、生き方やしあわせを探究する。

社会、そして個人の課題と向き合いながら、人間の生きる喜びやしあわせの探究を通して

誰一人取り残されない社会の実現へ、ともに歩んでいきます。



4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

興味・関心にあわせて学びをデザインし、系統的な履修を行うため、領域を設置。出願時に領域を選択します。

<p>現代社会領域</p> <p>差別や格差、ジェンダーギャップ、環境汚染など、現代社会における日本や世界のさまざまな社会問題を幅広く学び、その解決を模索する領域。</p> 	<p>文化・メディア領域</p> <p>芸術や文化、宗教と社会との関係、メディアやジャーナリズムと社会との関係を学び、人々のつながり方や価値観のつくられ方を研究する領域。</p> 	<p>健康・スポーツ社会領域</p> <p>生活に多彩な影響を与えるようになったスポーツやメンタルヘルスなど、私たちのからだところの健康から社会のあり方を学ぶ領域。</p> 	<p>現代福祉領域</p> <p>貧困をはじめとする福祉をめぐる社会問題と、その背景にある社会の構造を学び、誰もがその人らしく生き、安心して暮らすことができる社会の実現を実践的にめざす領域。</p> 
---	--	--	--

	1年次	2年次	3年次	4年次
興味のある領域を選んで入学	領域共通の必修科目を学ぶと同時に入学した領域に応じて専門的な学びを深める多様な授業を通じて自分の研究テーマを見つける		自分の研究テーマに沿ってプロジェクト科目群(演習・実習)を選択理論・実践・考察を往還し領域横断的に学ぶ	自分の研究テーマを掘り下げ卒業論文執筆
領域別に入学	<p>学修の基盤を形成するための「基礎教育科目群」</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎ゼミナールA・B 社会学への招待 社会学概論 社会福祉学への招待 社会イノベーション実践論 など <p>4領域の特色ある科目「専門教育科目群」</p> <ul style="list-style-type: none"> 階層と格差の社会学 ジェンダーと家族の社会学 グローバル化の社会学 逸脱と犯罪の社会学 歴史と記憶の社会学 		<p>領域横断的に学ぶ</p> <p>3・4年次には全員が合流して学び合える「プロジェクト科目群(演習・実習)」で、自分の興味のある社会問題をテーマに、多面的な学びを深めます。</p>	<p>プロジェクト科目群(演習・実習)テーマ例</p> <p>学生の興味のあり方によってさまざまなテーマを設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生と多様性 ジェンダーとセクシュアリティ 現代社会における文化と宗教 メディア実践 プロスポーツクラブと地域 農業と地域社会 公衆衛生と健康なまちづくり 都市祭礼の現状、継承と課題 ジャーナリズム アジアにおける仏教ソーシャルワーク 教育格差 スポーツマネジメント ...
現代社会領域	<ul style="list-style-type: none"> 集団とネットワークの社会学 子ども社会学 都市社会学 地域社会学 環境社会学 		<p>など</p>	
文化・メディア領域	<ul style="list-style-type: none"> アートと社会 文化と表象の社会学 ラジオ番組制作 インタビュー技法 広告と社会 		<ul style="list-style-type: none"> ポピュラーカルチャー論 共生のジャーナリズム リスクコミュニケーション論 ネット映像技法 社会問題とメディア 	<p>など</p>
健康・スポーツ社会領域	<ul style="list-style-type: none"> 健康とライフスタイル 健康と病の社会学 健康心理学 アウトドアスポーツ演習A・B スポーツ社会学 		<ul style="list-style-type: none"> 現代生活と保健衛生 レクリエーション実技 地域とスポーツ スポーツとビジネス スポーツと身体 	<p>など</p>
現代福祉領域	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉論 ソーシャルワークの理論と方法 貧困に対する支援 社会保障論 国際福祉論 		<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉論 社会的企業論 ボランティア・NPO論 多文化共生論 社会福祉調査の基礎 	<p>など</p>
	<p>学部共通コース</p>			

Message from Students

在学生メッセージ

現代社会領域



「自分ごと」として、社会問題に向き合う

新聞記者を志し、社会構造や解決策を学ぶために現代社会領域を選びました。加速度的に進行している高齢化や移動手段の不足といった課題は、決して他人ごとではありません。今の私にできるのは、社会問題を「自分ごと」としてとらえ、解決へのアプローチを探究することです。言葉や表現力を磨き、社会に貢献できる記者をめざします。

裁松 嵩拓さん

現代社会領域 1年生（滋賀県立東大津高等学校 出身）

健康・スポーツ社会領域



指導者をめざして、スポーツを多面的に学ぶ

この領域を志望したのは、幼少期から打ち込んできたスポーツを学問として深めたいと考えたからです。ここでは、競技技術だけでなく、心身の健康からスポーツ医学、ひいては社会のあり方まで融合して学べます。実践的な学びをとおしてスキルとキャリアを身につけ、将来は、日本のスポーツ界を支える人材として活躍したいと思います。

小倉 凜隼さん

健康・スポーツ社会領域 1年生（鳥取県立鳥取中央育英高等学校 出身）

文化・メディア領域



「メディアのあり方」を古都・京都で学ぶ

地域活性化やメディアへの強い関心から、この領域を選びました。また、伝統と現代が融合したまち京都を体感することも志望理由の一つです。現在はメディアを活用した地域活性化を模索しています。情報過多の現代には、メディアリテラシーを高め、正しく伝える力が不可欠です。京都がかかえる大きな社会問題である「オーバーツーリズム」も追究していきたいです。

乃村 藍さん

文化・メディア領域 1年生（香川県立坂出高等学校 出身）

現代福祉領域



家庭と地域をつなぐ、福祉的な視点を養う

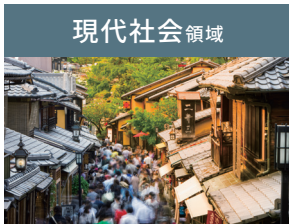
教師という職業に憧れ、勉強だけでなく、子どもの悩みを包括的に支えたいと思っていました。しかし、学校現場では個々の背景や養育環境が複雑化していて、教師だけではサポートしきれず、家庭と地域をつなぐ福祉的な支援者が不可欠です。子どもや家庭を支えるソーシャルワーカーをめざし、矯正保護などの専門分野も深めていきます。

高本 いろはさん

現代福祉領域 1年生（熊本市立必由館高等学校 出身）

4つの領域における特色ある科目をまとめた「専門教育科目群」(一部抜粋)

- 領域に応じた専門性を身につけるための科目群で、志向性に応じた系統的な履修で特定分野の学びを深め、自分が研究したいテーマを見つける。
- 3年次からはじまるプロジェクト科目群で設定されるテーマに関する理論を学修する場。
- この科目群では、社会の現場で実践に取り組む前に基礎的な理論や知識を学び、実践後はその経験を踏まえて、より応用的な理論や知識を深化させる。



現代社会領域

階層と格差の社会学

階層と格差の出発点ともいえる教育を主なテーマにしなが、家族社会学、都市社会学、犯罪社会学などを幅広く学修。社会的な考え方を身につけます。

ジェンダーと家族の社会学

現代の理想的な家族像は「近代家族」という新しいモデルにすぎません。ジェンダーの視点から家族を見つめ、当たり前と思っている家族像を相対化していきます。

逸脱と犯罪の社会学

犯罪や自殺など、ルールから外れた「逸脱」が蔓延する社会について学びます。さまざまな問題現象を観察して、その原因や対処法を考察し、社会のあり方を考えます。

環境社会学

環境社会学の基本理論を概説したうえで、環境問題を分析します。具体的な事例を踏まえ、環境の創造や環境問題に取り組む人々の動きを、地域コミュニティの視点から考察します。

歴史と記憶の社会学

歴史に対する社会的視点を「歴史の社会学」/「記憶の社会学」に分け、主要な研究成果を紹介し、過去に関する事象を社会的に研究することの意義と魅力を伝えます。

グローバリゼーションの社会学

グローバル化は人々に自由をもたらすと期待される一方、生活を不安定化するとの批判もあります。秩序の再構築という観点からグローバル化を捉え、社会の諸問題を発見する力を養います。



文化・メディア領域

メディアの社会学

海外で新聞記者経験をした教員が、日中韓ジャーナリズムの現場で何が起きているかを解説。また、日中韓のメディア事情を比較して、共通点や相違点を探ります。

インタビュー技法

ニュースがどのような形で取材され、届けられているのかを学びながら、信頼できる情報を見極める力を養います。また、インタビューや記事執筆の練習も行います。

文化と表象の社会学

落語、講談、ドキュメンタリー、短編映画、小津映画、歌舞伎などを取り上げます。文化と表象について、また、文化と表象をとおして現代社会について考えます。

ポピュラーカルチャー論

多様化・複雑化する現代のポピュラーカルチャーを解説するだけでなく、環境の分析を通じて社会の捉え方を学び、さらにまちづくりや地域活性化、ウェルビーイング等との関わりを考察します。

共生のジャーナリズム

市民社会の多様な声の調整役となるジャーナリズムの対話的価値を学び、人間同士が対等な関係を築き健全な民主主義社会を構築していくことの意味を考えます。

ネット映像技法

報道の在り方を大きく変えつつあるネットメディア。なかでも特に注目されているYouTube映像の影響と問題点を理解し、議論しながら実践的に学びます。



健康・スポーツ社会領域

健康とライフスタイル

健康づくり活動は、経済効果を上げ、人々に生きがいをもたらします。健康に暮らせるコミュニティの構築をめざして、健康の意義や生活習慣のあり方を学びます。

スポーツとビジネス

スポーツ産業の歴史的背景や産業構造を概説したうえで、ビジネス上の意思決定を分析。スポーツや社会に対してどのような影響を与えることになるのかについて考察します。

スポーツ社会学

スポーツ社会学の理論やテーマを学び、スポーツ現象や問題を考察します。スポーツ社会学はどのようにスポーツを捉え、説明してきたのか、という問題に取り組みます。

地域とスポーツ

スポーツに不可欠な「場」を支える地域と、地域社会で重要な役割を担うようになったスポーツの関係性を学び、とくに地域に好ましい成果を生む活用方法を考察します。

精神保健福祉の原理

精神障害者の相談援助に関する原理、ならびに法と制度についての知識を学びます。精神保健福祉士に必要な知識・技術・価値を習得し、実際の支援に応用します。

アウトドアスポーツ演習

自然との対話で成り立つアウトドアスポーツ。活動の概要を学ぶとともに、地域資源としての環境を理解し、社会的資本あるいは観光資源としての新たな視点を身につけます。



現代福祉領域

地域福祉論

人とのつながりが希薄化する今、行政や住民などが連携して「地域共生社会」をつくるのが求められます。地域福祉の現状や課題を学び、今後の展望を考えます。

児童福祉論

児童を取り巻くさまざまな問題状況を理解し、その問題状況を解決するための児童福祉の法律・専門機関・具体的なサービスについて事例をとおして学びます。

貧困に対する支援

主に貧困問題を対象とする「生活保護制度」の現状と課題を学びます。貧困観の移り変わり、生活保護法の概要、生活保護の問題点、援助活動などを取り上げます。

社会保障論

私たちの生活に欠くことのできない社会保障を多角的に解説。さらに社会保障改革の動向と問題点を検討し、私たちにとっての社会保障のあり方を考察します。

福祉とケアの社会学

福祉やケアに関わる幅広い生活課題を取り上げます。すべての人が人権を保障され、尊厳をもって生きられる社会の在り方について学びます。

障害者福祉論

障害者福祉の思想や背景を、歴史的な経過から現在の動向まで整理して学びます。「障害」とは何かを多様な視点から考察し、障害のある人をめぐる課題を身近な社会の問題として捉える視点を養います。

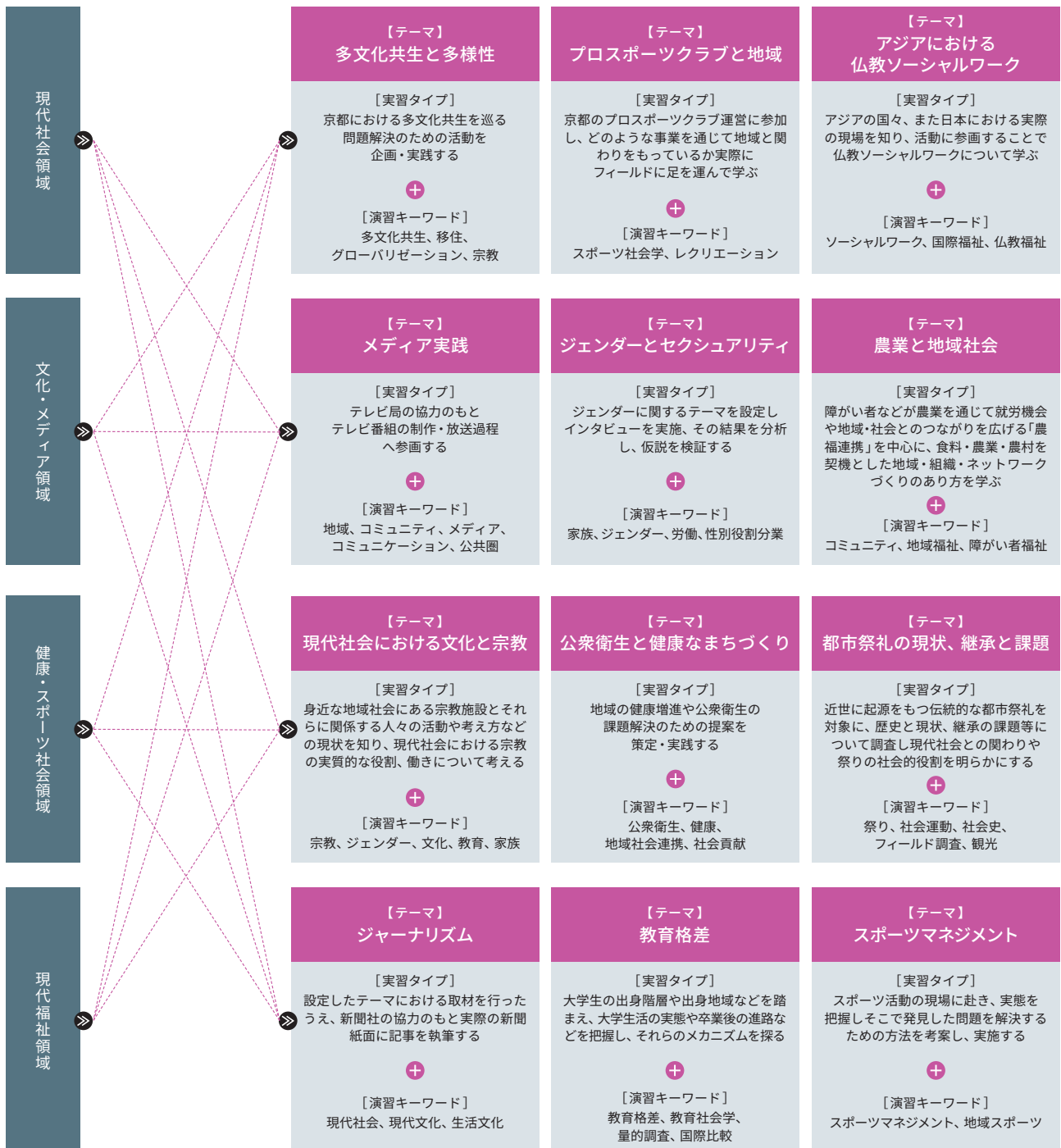
POINT 主体的な学びを深めることを目的とした教育課程

2 プロジェクト科目群

領域が融合して社会問題にアプローチするプロジェクト科目群

- 3年次からは領域が融合。自分の研究テーマに沿って「プロジェクト科目群（演習・実習）」を選択する。
- 「演習（ゼミ）」と「実習」の少人数クラスをそれぞれ履修。複合的な視点から学びを深める。
- 各自で設定した研究テーマを徹底的に掘り下げ、4年次には卒業論文を執筆する。

学生の興味のあり方によってさまざまなテーマを設定（以下は一例）



(一例)

Project #1

地域再開発と住民参加

柳生 悠那さん

3年生
(滋賀県立玉川高等学校 出身)



住民を巻き込む再開発とは 対話から見たコミュニティの価値

都市開発が進む一方、かつての景観や人間関係が失われ、住民が孤立してしまうことが懸念されています。この実習では再開発が進む滋賀県草津市を舞台に、社会関係資本の観点から「人と人とのつながり」がまちづくりにどう寄与しているのかを、調査しました。地域の方への聞き取り

をとおして見えてきたのは、テナント事業の真の価値です。単なる経済活動の場にとどまらず、住民の交流を促す社会的機能を担っていることを発見しました。社会課題を自分ごととして捉え、現地で対話を重ねるプロセスこそが、解決に向けた第一歩になると確信しています。

Project #2

伝統・歴史の継承

濱崎 心花さん

2年生
(大阪府立いちりつ高等学校 出身)



人の思いを引き出し 地域の魅力を言葉で紡ぐ

複雑化する社会で埋もれがちな「伝統や歴史の伝承」という課題に目を向け、自分たちが収集した情報を発信することで、解決の糸口を探っています。滋賀の魅力的な人や活動、場所取材し、情報をまとめて執筆した記事を、毎日新聞の滋賀版に掲載します。この経験をおとして、興味を

超えた分野に関心が広がると同時に、社会課題解決の第一歩は情報共有にあることを実感しました。問題の大小に関わらず、問題を知らなければ解決策を考えることさえできません。私たちの情報が一人でも多くの人に届き、行動を起こすきっかけになればと願っています。

Project #3

短編ドラマの制作

里 芽育さん

2年生
(京都府立桃山高等学校 出身)



身近な社会課題と向き合い 観る人の心に届くドラマをつくる

身近な社会課題である「SNS依存」をテーマに、びわ湖放送で放映される短編ドラマの制作に挑戦しました。私たちのグループが伝えたいのは、文面だけのやりとりで頼る危うさと、顔を見て直接伝えることの必要性です。制作にあたってテレビ局を見学し、番組が多くの人の手を経て、大

切につくられていることを知りました。私たちの映像が実際に放送されるという事実は、自覚と責任感を生み、意識を大きく変えました。SNS依存は、私たち自身にも関わる身近な問題です。この課題と向き合い、観る人の心に届く作品づくりを進めていきたいと思います。

Project #4

子育て世代の孤立解消

松尾 成美さん

2年生
(岡山県立津山東高等学校 出身)



商店街の資源を活かした交流拠点 親子が自然につながる場をつくる

社会共生実習の一環として、大津市のナカマチ商店街を拠点に地域課題の解決に挑みました。聞き取り調査で見えてきたのは、子育て世代が気軽に立ち寄れる居場所の不足という実態です。そこで、大学に寄贈された絵本を活用し、親子が安心して過ごせる「親子のひみつきち」を企画・

運営しました。日常の動線のなかに無理なく続けられる「居場所」をつくり、当事者の声を聞きながら、地域の方と同じ立場で協働する責任を痛感しました。現場での直接的な対話を通じて、「人の生活」にある課題に主体的に向き合う力が養われたと感じています。

Project #5

運動不足に起因する健康課題

村岸 芽衣さん

4年生
(京都府 京都橘高等学校 出身)



地域を歩き、住民の健康を支える
オリジナルマップを制作



滋賀県湖南市で住民の運動不足と、それに起因する健康課題の解決に挑みました。誰もが気軽に運動を始められることを前提に、特に運動から遠ざかりがちな働き世代の女性を対象とした「運動・スポーツ関連資源マップ」を作成しています。Webでの情報収集に加え、市内のフィール

ドワークで集めた、からだに優しい初心者向けの情報を取りまとめました。社会課題を解決するには、自分ごととしてとらえる必要があります。地域の健康づくりに貢献したいと試行錯誤するなかで視野が広がり、個人の小さな一歩が社会を動かす力になることを実感しました。

Project #6

市民活動の活性化

細見 恭大さん

3年生
(大阪府 大阪産業大学附属高等学校 出身)



ボランティアへの先入観を
楽しく更新する場づくり



ボランティア・市民活動への住民の関心を高める方法を探るなかで、若者の参加者が少ない現状を知りました。原因の一つとして挙げられる「無償の労働」というイメージを変えるには、「自己成長」というボランティアの魅力シェアできる体験会や講座などの場づくりが必要です。

その積み重ねが、社会問題への関心や住民同士の交流、そして地域活性化にもつながるに違いありません。私自身この取り組みを通じて、地域課題に目を向ける機会が増え、災害時に求められることや自分ができることを俯瞰的に考えられるようになりました。

Hot Topics

社会学部の取り組み

1 社会学部メディアスタジオの新設

社会学部メディアスタジオは、メディア関連の学びをハード面から支援するための映像収録や編集機器を備えた施設です。放送局、企業、YouTubeチャンネル等、プロの現場で、日々どのように番組が制作されているかを体感でき、将来、映像関係やマスコミへの進路を希望している学生のニーズにも対応しています。

映像収録用スタジオスペース

マルチカメラでの収録やクロマキーによるさまざまな背景との合成、ネットを通じた学外者との番組制作、ライブ配信、ラジオ番組収録等に対応しています。

編集スペース

Macパソコン、27インチApple Studio Display、モニタースピーカーなどを設置し、プロの制作現場で広く普及している編集ソフトを用いて作業ができます。

コラボレーションスペース

多数の MacBook Pro を用意し、編集スキルの習得や、各自の作業の様子・進捗を相互に確認できます。



2 ぴあ総研と連携し、エンタメ業界への理解を深める機会を充実

エンタテインメント分野に特化した国内唯一のシンクタンクである、ぴあ総合研究所株式会社と連携し、講義や社会的な課題をテーマにしたプロジェクト型授業を通じて人材育成をすすめています。

ポピュラーカルチャーに関する講義

ライブ・エンタメ市場の環境分析に関する専門家を講師にお招きし、音楽、映画、舞台など現代日本のポピュラーカルチャーの変遷や環境の分析を通じ、ポピュラーカルチャー・ビジネスについて学びます。ポピュラーカルチャーと街づくり、地域活性、ウェルビーイング等の関わりなど、多角的な視点からビジネスとの関連性やその将来性も考察していきます。

さらに、エンタメ業界で活躍されている実務家をゲストスピーカーとして多数お招きし、最新の業界動向に触れる機会も設けています。



プロスポーツビジネスをテーマにした実習

プロスポーツチームの現場で働く方々から、マーケティング、チケットング、ファンクラブ運営、スポンサード、スタジアムビジネスなどのテーマに沿って、具体的な仕事内容、スポーツビジネスに必要な知識を学びます。また、プロスポーツの現場体験や現場の課題解決の取り組みを考えるワークショップなども予定しています。

3 社会学部ではグローバルに学びたい学生に、学部独自の海外研修プログラム「海外フィールドワーク」を用意しています

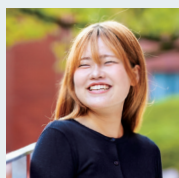
「海外フィールドワーク」は1年次生から参加申込でき、英語や中国語の語学要件はありません。2025年度から開始し、参加は任意（自己応募制）です。2025年度はネパール・カトマンズ、中国・広州、オーストラリア・シドニーでフィールドワークを行いました。

各プログラムでは参加学生全員を対象とする大学からの一部費用補助もあります。また、教員が引率するので、海外が初めての方も気軽に参加できます。今後はアメリカでも実施予定です。



ネパール・カトマンズ

ネパールプログラムでは山間部の学校を訪問したり、カトマンズ本願寺が運営する日本語学校の学生と交流しました。また、Tribhuvan University (TU) の日本語学科クラスを訪問し、同クラスの学生とも交流。2025年度は龍大生とTU生混成のグループに分かれ、カトマンズ市内の探索もプログラムの一環として実施しました。



未知の世界に飛び込む勇気もたらす 柔軟な思考と揺るぎない行動力

増淵 琉惟さん

現代社会領域 1年生（滋賀県立玉川高等学校 出身）



「興味湧いたら即行動」をモットーに、ネパールでの海外フィールドワークに挑戦しました。現地の学生との交流やまち歩きを通じて、本国とは全く異なる価値観や習慣、文化を体感しました。特に印象的だったのは、店員さんが「自分ファースト」で働く姿です。日本における接客の質の高さを再認識する一方で、ネパール流の気楽な接客にも良さがあると気づきました。現地の方と関わり、言葉の壁を超えて心を通わせた経験は、大きな自信にもなっています。多様性を受け入れる柔軟な思考と未知の世界に飛び込む勇気は、未来の自分を助けてくれるはず。この経験を今後の学びや人生にも活かしていきます。



中国・広州

中国・広州プログラムでは龍谷大学が学生交換協定締結を有する広東外語外貿大学を訪問。2025年度のプログラムでは、同大学で日本語を学ぶ2名の学生がチューターとして龍大生をプログラム期間中にサポートしてくれました。プログラムではキャンパスを飛び出して実施する研修も豊富。中国社会・文化を学びつつ現地企業も訪問しました。



圧倒的なデジタル社会を体感し 渡航前のマイナスイメージが一変

佐伯 飛翔さん

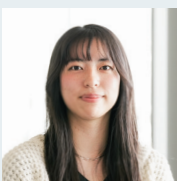
文化・メディア領域 1年生 (大阪府立和泉高等学校 出身)

「異文化理解と中国社会の現状を学ぶ」という海外フィールドワークに参加し、渡航前に抱いていた中国に対する偏見は、たちまち一変しました。研修先の広州市は清潔な近代都市で、屋台でさえもQR決済が完結する超デジタル社会です。日本を大きくリードするデジタル化には、圧倒されるばかりでした。水道水が飲めなかったり、交通マナーの違いに不便を感じた経験も「日本の当たり前は世界の当たり前ではない」という気づきをもたらし、異文化を受け入れる柔軟な思考が身につきました。たとえ言葉や文化が違ってても「相手を理解しよう」という姿勢があれば心は通じ合えることを体感できたのも、大きな収穫です。



オーストラリア・シドニー

オーストラリア・シドニープログラムでは、オーストラリアの現地企業やジャパンファンデーション・シドニーを訪問し、社会学・社会福祉学に関連するトピックを学びました。また、宿泊先はホームステイ。多様なバックグラウンドを持つ家庭に滞在し、生活の面でもオーストラリアの多様性を実感しました。



開放的なシドニーで日本を再発見 大切にしたい文化と見習うべき文化

松下 莉緒那さん

文化・メディア領域 1年生 (大阪府 初芝立命館高等学校* 出身) ※現: 利島学園大阪立命館高等学校

シドニーでまず驚いたのは、周囲を気にせず自分の好きなファッションを楽しんでいる人々の姿です。日本では周りと同じであることに安心しがちですが、その意識が個性への理解を遅らせているのかもしれない。開放的な雰囲気に刺激を受け、私も普段は着ないノースリーブで過ごしました。一方、日本の接客マナーの素晴らしさも再発見しました。そのスキルの高さは現地の人々も褒めるほどで、この人の気持ちに寄り添い、おもてなしをする意識は決して当たり前のものではなく、日本人が世界に誇るべき文化なのだと感じました。今後は海外と自国を多角的な視点から比較し、それぞれの文化や習慣を分析したいと考えています。



Seminars

ゼミ紹介

現代社会領域

「オーバーツーリズム」について

観光客増加で失われた伝統 学生視点で描く持続可能な観光のかたち

私の地元 広島県廿日市市では、毎年開催されていた、宮島水中花火大会が2021年に打ち切られました。その要因の一つに挙がっているのが、オーバーツーリズムです。地元で愛されてきた伝統が観光客の増加によって消失した事実への衝撃を受け、オーバーツーリズムへの関心が強くなりました。私がまず行ったのは、花火大会の運営団体へのアンケート調査です。その結果から、安全性確保や行政との連携の難しさなど、参加者には見えにくい課題が見えてきました。運営者側の視点を得て、当事者の立場に目を向ける思考が養われたと感じます。宮島水中花火大会を事例とし、持続可能な観光のあり方を模索していきます。



吉野 友津基さん

4年生
(大阪府立箕面高等学校 出身)



ゼミで取り扱う学びのテーマ(例) [現代社会領域]

- 生成AIを利用している学生の特徴
- ディズニープリンセスから読み解く女性像の変化
- 男性の生きづらさと現代日本社会の考察—日本に蔓延る男性と女性の二分法的思考を踏まえて—
- 服装規範の変容に関する考察—規範の内面化と自由の中の不自由—
- 京都観光における観光税の機能と限界—オーバーツーリズム対策の観点から—
- なぜ人は差別をするのか?—構造と心理から見る差別の本質—
- 若者はなぜ夜職を始めるのか
- 学校制服とジェンダー規範の再検討—多様性に配慮した制度運用をめぐる—
- 日本の温泉におけるタトゥー規制の経緯と要因
- 結婚観に対する大学生の意識調査

文化・メディア領域

推し活の社会学

「推し活」という文化現象から 消費社会の仕組みを学術的に探る

自分の興味から自由にテーマを設定し、好きな分野を掘り下げていけるのが、私の所属するゼミの魅力です。周りのゼミ生のテーマも実に多彩で、未知の世界に触れることができます。私は、K-POPのアイドルグループに夢中になった経験から「推し活」に焦点を当て、その背景にある経済的・社会的構造を研究しています。アイドルを学術的にとらえた書籍を読むと、ただ楽しむだけだと思っていたアイドルの世界にも新たな発見があり、彼らの活動を社会的・文化的視点から考察する面白さを感じるようになりました。卒業論文では、研究を進めるなかで浮かび上がった「推し活は運営による搾取構造を内包しているのではないか」という疑問に迫っています。



栗本 未来さん

4年生
(群馬県立桐生高等学校 出身)



ゼミで取り扱う学びのテーマ(例) [文化・メディア領域]

- 「SNSの中の自分」は本当の自分か?—デジタル空間における自己像と他者評価—
- ダイエットは“自分のため”なのか—SNS時代における身体管理と承認欲求の社会的構造—
- 人が応援するということ—現代アイドル文化における能動的な関与の心理的・社会的構造—
- テレビ視聴の減少と食生活の個人化—メディア環境が変わる食卓の風景—
- アパレル販売員のワークモチベーション
- 「無宗教的宗教性」の構造—『嵐』の活動終了から考える新しいアイドル論—
- 地元密着型YouTuberの可能性—東海オンエアと岡崎市の繋がりについて—
- AIを活用した高齢者福祉サービスの現状と今後の可能性
- 広告がつくる外見への意識



健康・スポーツ社会領域

eスポーツのスポーツ性に関する研究

情報社会の変化を読み解き 「eスポーツ」の可能性を探る

情報による現代社会の変化に関心があり、現在のゼミを専攻しました。ゼミでは、新聞やSNSなど複数のメディアを比較して議論する時事ニュースディスカッションを行います。ゼミ生間の議論をとおして、情報を鵜呑みにせずその本質を問う、批判的思考力が鍛えられました。卒業論文のテーマに選んだのは、情報社会の変化を象徴する「eスポーツ」です。日本では単なるゲームと思われがちな「eスポーツ」も、情報のあり方が変化したからこそ生まれた新しい競技文化です。「eスポーツ」がどのようなプロセスを経て日本社会にスポーツとして受容されていくのか、スポーツの要素を満たせるのかについて、多角的な視点から探究していきます。



安部 謙伸さん

3年生
(岡山県 創志学園高等学校 出身)



その他の研究室テーマ [健康・スポーツ社会領域]

- スポーツ経験が心理的対処に与える影響—幼少期の習い事を通してみる心の発達—
- 筋力トレーニングとメンタルについて—筋力トレーニングによってメンタルの変化があるのか—
- スポーツ漫画・アニメが大学生の運動意識及び行動に与える影響
- 高齢者の運動とスポーツ活動の実態
- 運動と音楽の関係
- スマホなし生活—デジタルデトックスが生活習慣および心理状態に与える影響—
- 地域で養う心と体の健康
- ファッションにおける心理的影響
- 日本人の食生活とライフスタイルの変化—なぜ健康食品が人気なのか—
- 労働に対するメンタルヘルスの課題—働き手に寄り添った社会の実現—

現代福祉領域

義足ユーザーの自分らしいファッション

社会問題を多角的に考察し 誰もが自由に生きられる社会へ

貧困問題を中心に、高齢者、障がい者、児童などさまざまな社会課題を学んでいます。このゼミを選んだのは、幅広い社会課題の中心にある貧困問題を、多角的にとらえたいと思ったからです。グループ発表やゼミ生同士の意見交換をとおして多様な視点に触れ、自分にはない新たな視点に気づきました。福祉に関する深い知見を得て、現在は「義足ユーザーが義足を隠さず生活できる社会にするためには」というテーマで研究を進めています。実際に義足ユーザーにアンケートを行い、義足や社会への思いについて知ることができました。彼らがより自由に暮らすために必要な環境を問いながら、誰もが生きやすい社会のあり方を追究したいと考えています。



佐藤 春渚さん

4年生
(大阪府立大冠高等学校 出身)



その他の研究室テーマ [現代福祉領域]

- 母子家庭の子どもへの影響と支援
- “怒り”の向こう側にあるもの—認知症高齢者の感情表出に対する理解とケアの在り方—
- 虐待を受けてもなお子どもが親を求め続ける心理
- 京都市で子育てをしやすい環境をつくるために
- 重症心身障害者とのコミュニケーションを考える—「人間どうし」の関わりあい—
- 子どもの貧困と地域社会—支援の多様性と今後の課題—
- 不登校児童生徒への支援の課題—相談機会のあり方を中心に—
- 発達障害グレーゾーンにおける支援につながりにくい構造と課題
- 家庭環境が非行少年にもたらす影響とその考察

株式会社村田製作所 勤務

八日市事業所 第2製造部 技術1課

ロジカル思考で、
本質的な課題を解決する

電子部品の安定生産を支える製造技術職を務めています。主な業務は、製品評価や不良品解析、原価改善などの技術的な指導です。仕事の根幹は、在学中に学んだ「現場主義」です。社会共生実習では、現地で困りごとをヒアリングし、理論と情報を合わせて解決策を探るプロセスを徹底的に学びました。理論と実践を掛け合わせたこの手法は、各分野のプロフェッショナルが集い、ロジカルな思考がもとめられる職場でも活かされています。製造現場の現状を目で見て、オペレーターの声を聞く。そこで得た一次情報と、先輩方から教わる理論的な知識を組み合わせることで、初めての確かな解決策を提示できるのです。現場から本質的な課題を見つけ出す力が、今の自分を支えてくれています。

川部 香織さん

2021年卒業
(滋賀県立大津商業高等学校 出身)



Life after G

日本放送協会

報道局 勤務

(フリーアナウンサー・ディレクター)

相手の思いを汲み取り、
正しく伝える

NHKのキャスターを経て、NHKニュース番組の大相撲コーナーの取材や番組制作などに携わっています。大相撲は私のライフワークでもあり、番組出演や記事の執筆、イベントの司会など、活動は多岐にわたります。大切にしている「現地に足を運び、当事者の思いを形にする」姿勢は、大学での経験にあります。限界集落の町おこしプロジェクトでは、現地で当事者の声に耳を傾け、街コンを企画・開催しました。「考え、行動し、学ぶ」一連の流れをとおして培った、思いを汲み取り伝える力は、仕事の基盤です。私は夢を叶えるために、龍谷大学に入学しました。ここには、挑戦できる機会が豊富にあり、夢を後押ししてくれる先生がいます。きっとあなたの力になってくれるはずです。



赤井 麻衣子さん

2015年卒業
(大阪府立枚方高等学校 出身)

FUJIFILM

Business Innovation Asia

草野 香織さん

2018年卒業
(滋賀県草津東高等学校 出身)



raduation

小野 哲平さん

2016年卒業
(京都府立東舞鶴高等学校 出身)



FUJIFILM Business Innovation
Asia Pacific Pte. Ltd. 勤務

Marketing & Planning Specialist,
Japanese Account Sales

世界と日本をつなげ、
グローバルに活躍する

マレーシアにて在馬日系企業を対象に、DX推進のソリューションを提案する営業活動を行っています。多様な文化をもつ現地スタッフと協働し、お客様の課題解決に貢献できることが喜びです。マレーシアの日本商工会議所のメンバーとしても活動し、異国で働く日本人の橋渡しにも注力しています。キャリアの原点は、在学中に挑んだ、瀬田商工会との連携プロジェクトとBIEプログラムでのアメリカ留学です。プロジェクトで得た企業の課題や魅力を引き出す「対話力」は、お客様への提案に活かされ、留学で芽生えた「海外の人と関わる仕事がしたい」という想いは、多民族国家マレーシアで働く今につながりました。地域貢献活動と留学経験が私の礎となっているのは間違いありません。

尼崎市役所 勤務

福祉局 福祉部 包括支援担当

支援の専門性を活かし、
福祉行政を支える

社会福祉士枠で市役所に入庁し、地域包括支援センターの後方支援を担っています。権利擁護や高齢者虐待などに対する政策立案、市民への個別支援といった多様な業務の基盤は、ソーシャルワーク演習や実習で培った、支援の技法と倫理観です。大学では、住民主体のコミュニティづくりや、専門職によるコミュニティソーシャルワークについて学びました。また、福祉系・ビジネス系資格の取得や社会福祉協議会でのボランティア、介護施設のアルバイトにも注力しました。目標をもって自己研鑽に努めた経験は、今も大きな自信となっています。福祉行政職として、さらに知識と技術を高め、多分野の知見をもつジェネラリスト・ソーシャルワーカーをめざします。



総合社会学科

取得可能な免許・資格

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- レクリエーション・インストラクター※1
- 社会福祉士（国家試験受験資格）※2
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 健康教育専門士※1
- 精神保健福祉士（国家試験受験資格）※2※3
- 社会調査士
- 本願寺派教師資格（受験資格）

※1：健康・スポーツ社会領域の学生のみ取得可能

※2：4年間で社会福祉士（国家試験受験資格）と精神保健福祉士（国家試験受験資格）の両方取得することはできません

※3：精神保健福祉士（国家試験受験資格）は入学後、資格取得に際して選考等の制限が入る場合があります

めざす職業・進路

- メーカー（食品、化粧品、化学、インテリア、アパレル、印刷、自動車、電気・電子機器、半導体・電子部品、住宅、繊維など）
- 広告・通信・マスコミ（出版・雑誌、放送・テレビ・ラジオ、新聞、通信）
- 商社
- IT・ソフトウェア・情報処理
- 銀行・証券・保険・金融
- 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を活かし、行政機関や相談支援事業所、各種社会福祉施設等の福祉分野など
- 百貨店・専門店・流通・小売
- 公務員（国家・地方）、国際機関の職員、NPOやNGO、社会的企業など
- サービス・インフラ（観光、スポーツ関連、教育、福祉、不動産、航空、鉄道、エネルギー、人材サービス、コンサルタントなど）

資格取得状況

少子高齢化がすすむ現代社会において、福祉のプロフェッショナルを求める声が年々高まっています。

現行の現代福祉学科では社会福祉士などの資格取得をめざす学生が多く、合格率は常に全国平均を上回っており、優れた人材を輩出しています。

2025年度

社会学部 社会福祉士
国家試験合格率（新卒）

81.4%

※全国平均は60.7%

2025年度

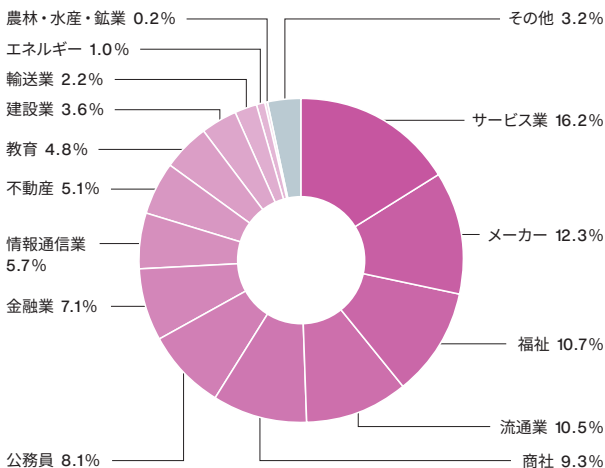
社会学部 精神保健福祉士
国家試験合格率（新卒）

86.4%

※全国平均は78.2%

就職状況（2025年3月卒業生）

社会学部



【主な就職先】

- 【建設業】
- 大和ハウス工業株式会社
- 【メーカー】
- 株式会社伊藤園
- 山崎製パン株式会社
- シャープ株式会社
- パナソニック株式会社
- 株式会社村田製作所
- 【輸送業】
- 近畿日本鉄道株式会社
- 【商社】
- キヤノンシステムアンドサポート株式会社
- 【流通業】
- 株式会社ニトリ
- 【金融業】
- 株式会社京都銀行
- 第一生命保険株式会社
- 損害保険ジャパン株式会社
- 【情報通信業】
- Sky株式会社
- 富士ソフト株式会社
- NTT西日本株式会社
- 【サービス業】
- 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
- 日本郵便株式会社
- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
- 社会福祉法人聖隷福祉事業団
- 株式会社エイチ・アイ・エス
- 株式会社JTB
- 【福祉】
- 社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団
- 社会福祉法人京都市社会福祉協議会
- 社会福祉法人京都老人福祉協会
- 【教育】
- 京都府教育委員会
- 【公務員】
- 国税庁
- 大阪府庁
- 鹿児島県庁
- 千葉県庁
- 徳島県庁 など

※主な就職先は業種順に記載



株式会社LIXIL 内定

見えない思いに寄り添い、豊かな暮らしを提案する

新聞記者実習を通じて、地域課題の背後にある人々の思いを汲み取る重要性を学びました。制度や数字だけでは見えない生活実態をとらえ、他者へ伝えた経験は、自らの軸をもって社会と向き合う力となりました。この「相手に寄り添う姿勢」は、就職後でも大きな強みになるに違いありません。一人ひとりの価値観に共鳴し、暮らしを豊かにできる営業担当へ成長したいです。

野田 玲那さん

4年生

(京都府立城南菱創高等学校 出身)

岩谷産業株式会社 内定

情報を見極め、世の中に真の価値を届ける

大学生活を通じて、情報に振り回されず取捨選択し、それらを活用する力が身につきました。就職活動でも情報収集を意識し、企業ごとの統合報告書の比較、関連する社会情勢の調査など、自分の言葉でしっかり説明できるまで情報を落とし込みました。常に学び、成長を重ねながら、世の中で求められる真の価値を見極め、形にできる存在をめざします。

水登 彩月さん

4年生

(京都府 京都文教高等学校出身)



株式会社高島屋 内定

まちづくりの視点から百貨店の可能性を追究

地域社会学の視点から、農業や寺院の過疎化という社会課題を考察しました。障がい者就労支援による農福連携や、寺院でのマルシェや音楽フェスなどの取り組みをとおして、住民とのつながりが地域存続の力になることを学びました。今後は、地域社会と共生する「まちづくり」の一翼を担い、地方創生に貢献できる新たな百貨店の形を追究していきます。

生嶋 達斗さん

4年生

(大阪府立高等学校[※]出身) ※現：大阪府立いちっ高等学校



社会福祉法人 恩賜財団 済生会滋賀病院 内定

あらゆる人が共助できる社会づくりをめざす

インターンや説明会では、力を活かせる分野を客観的に見極めました。そこで出会ったのが福祉分野です。数値では測れない「幸福」の価値を追求する仕事に適性を見出しました。内定先を選んだのは「ゆりかごから介護まで」という理念、誰もが生きやすい環境づくりを推進する姿勢に感銘を受けたからです。私らしい支援のあり方を模索していきます。

宇野 姫愛さん

4年生

(滋賀県立東大津高等学校 出身)



京都深草キャンパス[※]

京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-585-7672 shakai@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約42分
京阪「京橋」駅 → 約41分
近鉄「奈良」駅 → 約43分
JR「三ノ宮」駅 → 約63分

※2027年4月、「深草キャンパス」より名称変更。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 社会学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け入れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.soc.ryukoku.ac.jp>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行

